

【中学校 美術】

題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準			※枠内は定型文例と□は評価内容
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<p>・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に○○などを全体のイメージや作風で捉えていることを理解している。</p> <p>【知識】〔共通事項〕より作成/下線部は、題材に即して、文言を削除したり追記したりする。造形的な視点を豊かにするための知識として評価する。</p> <p>学習指導要領「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の〔共通事項〕の取扱いと題材との関連を考慮する。</p> <p>例示は、第1学年</p> <p>・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p> <p>・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。</p> <p>【技能】A「表現」(2)ア(ア)(イ)より作成/題材によっては、(ア)(イ)の両方を示さない場合もある。下線部を具体的な用具や材料に変えて示す。表現の活動を通して育成する技能の資質・能力を評価する。</p>	<p>・対象や事象を(深く)見つめ～</p> <p>・構成や装飾の目的や条件～</p> <p>・伝える目的や条件～</p> <p>・使う目的や条件～</p> <p>～主題を生み出し…表現の構想を練っている。</p> <p>【思判表(発想・構想)】A「表現」(1)ア(ア)イ(ア)(イ)(ウ)より作成下線部ほか、題材に即して具体的な文言で示したり、文言を削除・追記したりする。発想・構想に関する資質・能力を評価する。</p> <p>()内は、第2学年及び第3学年</p> <p>・造形的なよさや美しさを感じ取り～</p> <p>・目的や機能～</p> <p>・身の回りにある～</p> <p>・身近な地域や～</p> <p>～見方や感じ方を広げている。(深めている。)</p> <p>【思判表(鑑賞)】B「鑑賞」(1)ア、(ア)(イ)イ、(ア)(イ)より作成鑑賞の関する資質・能力を評価する。</p>	<p>・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく(主体的に)目的や機能などを考えた～</p> <p>～表現の(幅広い)学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【主体態(表現)】「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようしたり、発揮しようとする事へ向かう主体的な態度を評価する。</p> <p>・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく(主体的に)作品や美術文化などの鑑賞の(幅広い)学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【主体態(鑑賞)】下線部は、題材に即して具体的な文言で示す。作者の心情や表現の意図などを考えるなどして、見方や感じ方を深めようとしている姿を評価する。</p>	

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方 (例:表現の題材)

過程と基本的な学習活動	
出会う	<p>1 表現の見通しをもつ。</p> <p>◇題材や材料、表現方法などとの出会い、イメージを膨らませる。</p> <p>◇題材の課題を立てる。</p> <p>【題材の課題】 〈題材全体で学習する 大まかな内容〉</p>
試す・広げる	<p>2 表したいことや主題を発想・構想する。</p> <p>◇大まかな制作の順序や扱う材料や用具、表現方法を知る。</p> <p>◇思いや願いを膨らませ、表したいことや主題を生み出す。</p> <p>◇表したいことや主題を基に、構想を練る。</p> <p>◇材料や用具、表現方法を習得する。</p>
表す	<p>3 構想を基に制作する。</p> <p>◇思いに応じて材料や用具、表現方法を選んだり組み合わせたりする。</p> <p>◇材料や用具などの特性を生かし、表し方を工夫して制作する。</p> <p>◇制作途中の作品を相互鑑賞し、よさなどを共有する。</p>
振り返る	<p>4 作品を鑑賞し表現活動を振り返る。</p> <p>◇作品を鑑賞し合い、よさや工夫点を話し合う。</p> <p>◇題材全体の振り返り</p>

〈例〉評価の位置付け(表現の題材)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
<p>【知識】形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取り指導に生かす。</p>	<p>【思判表(発想・構想)】主題を生み出し構想を練っているか評価</p> <p>「出会う過程」の活動内容により、重点を置く評価の観点は変わります。(3観点全て評価するわけではありません。)</p>	<p>【主体態(表現)】「知識理解」や「発想・構想」などに関する態度を評価</p>
<p>単位時間</p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知技】題材で使用する材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているか、制作の順序などを考えながら見通しをもって表しているか、知識と一体的に評価</p>	<p>【思判表(発想・構想)】主題を生み出し構想を練っているか暫定的に評価</p> <p>【思判表(発想・構想)】主題の変化、配色計画などを基に再度評価</p>	<p>【主体態(表現)】「発想・構想」や「知識・技能」に関する態度を評価</p> <p>【主体態(表現)】題材全体を通して評価</p>
	<p>【思判表(鑑賞)】作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えているか評価</p>	<p>【主体態(鑑賞)】楽しく(主体的に)取り組もうとしている態度を評価</p>

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

・記は、題材の観点別学習評価の総括に用いる「題材の評価規準」を示しています。

・目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。

・学習過程の後半での、記録が多くなることを考えられます。

〈題材終了後〉

<p>【知技】完成作品やワークシートなどから評価を再確認</p>	<p>【思判表(鑑賞)】ワークシートなどでの見取り</p>	<p>・題材終了後、完成作品やワークシート、アイデアスケッチなどを基に、必要に応じて評価を修正する。</p>
----------------------------------	-------------------------------	--